



東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 167 Oct. 1. 2021

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCL'LL

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

銀行口座 三菱UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (株) 浅井隆文社



古道塩の道〔豊田市の明川町側からの伊勢神峠道と連谷町側からの伊勢神宮遥拝所(左下)〕本文P4参照

目次

○登山学校第5期スタート	服田康宏	2	○箕浦靖夫氏追悼	葛谷凱治	13
				西山秀夫	14
○東海支部60周年記念事業			○随想すばらしき岳兄たち(4)	杉浦吉治	15
式典・懇親会の概要決まる	尾上 昇	3	○60山ラリー経過報告	大関真耶	16
○山岳古道調査委員会報告	西山秀夫	4	○登山用具あれこれ①	千葉泰丈	17
○東海岳人列伝⑳	西山秀夫	5	○支部友コーナー	田中 進	18
○東海支部俳壇		8	○委員会報告 山行/自然保護		19
○リレーエッセイ⑭	杉山雄彦	9	○会務報告	今津英一郎	21
○東海支部蔵書からの一冊⑳	石田文男	10	○ルーム日誌・会員異動	今津英一郎	23
○トピックス		12	○INFORMATION	星 一男	23
			○編集後記		

登山学校第5期スタート

登山学校運営委員会委員長 服田康宏

7月10日(土)、OMCビル4階講堂にて登山学校第4期修了式および第5期入校式が行われた。

第5期受講生は初級14名(3クラス)、中級9名(2クラス)、上級受講生9名(1クラス)の総勢32名で、前期からの継続が17名、新規は15名であった。新規受講生の中には、かなり山の経験を積まれている方もいたが、「基礎をしっかりと学ぶ」学校方針のもと、初年度は初級クラスを受講いただくことにした。まずは読図や計画書の作成、山のルールやマナーなど、今後の登山ライフの土台となることを身につけていただければと思っている。



第4期修了式の様子

第5期カリキュラムは、本来なら8月から本格的にスタートする予定であったが、8日にまん延防止等重点措置が発出され、大幅な見直しを迫られることになった。結果的に現地講習が予定通りおこなわれたのは8月1日実施の1クラスのみとなり、残り5クラスはすべて中止・延期、また8月と9月の机上講習も延期となってしまった。思い返すと昨年の入校式も新型コロナ感染拡大で開催が危ぶまれたが、その時はまさか1年後に事態が悪化しているとは夢にも思っていなかった。今回の支部報に2022年1月からのカリキュラムが記載されているが、この頃までには通常の学校運営



第5期入校式の高橋学校長挨拶

ができるようになっていくことを切に願っている。

話は変わるが、昨年の警察庁発表の山岳遭難者は2697人であった。年代別に見ると60歳以上が全体の50.1%を占め、死者・行方不明者に限ればその割合は73.0%まで増加する。原因で最も多いのは例年通り道迷いであったが、遭難者全体の44.0%を占め昨年の38.9%から大幅増となった。昨年のデータからも「高齢者が低山で道に迷い」遭難するケースが増えてきていることが読み取れる。この傾向に歯止めをかけるためにも、ひとりでも多くの自立した登山者を育成していくことが登山学校の務めだと思っている。



7月机上講習の夏山気象講座の様子

『支部創立60周年記念事業』について

60周年記念事業委員会 委員長 尾上 昇

東海支部は、1961年（昭和36年）に設立されました。その60周年が2021年（令和3年）に当たることから各種の記念行事が企画立案されました。各事業は、国内事業と国外事業とに分かれ、国内事業は、記念式典（講演会）及び懇親会と60山ラリー、国外事業には、海外登山と海外トレッキングが計画されました。

それぞれが該当年度を中心の実施を決めていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、影響の少ない60山ラリーのみの実施とし、後は全部白紙に戻しました。

併せて支部の主要行事（総会のみリモート開催）も延期や中止となり、各委員会の活動も縮小もしくは、中止を余儀なくされました。

今後の支部の活動展開は、新型コロナウイルスの感染状況のいかんにかかっていますが、本年の9月に入りその収束に向かった動きが顕著になってきたことから、毎年恒例の新

年会（昨年中止）の実施が決められました。また、この新年会を支部創立60周年記念事業の一環として兼ねることが承認されました。

内容は記念式典、講演会、懇親会の3部構成になります。その内の講演会ですが2つの講演を予定しています。

一つは、東海支部が世界的評価を得た1970年のマカルー峰（8463m）南東稜初登攀の再評価です。もう一つは、マカルー峰の50年前のヒマラヤ登山と対比させ今のヒマラヤ登山の現状を語ってもらいます。

講師は、3回のピオレドール賞を獲った世界的に有名なクライマー平出和也氏です。ヒマラヤ登山の昔と今、登山史の上からも大変興味を抱く題材ではないでしょうか。

大変貴重な講演会です。支部の創立60周年をお祝いする懇親会と併せて、多勢の支部関係各位のご参加をお待ちする次第です。

（公社）日本山岳会東海支部 創立60周年記念の集い

○ 日時 令和4年1月16日（日） 午後2時から

○ 場所 今池ガスビル「ダイヤモンドルーム」・レストラン「ガス燈」

○ 予定 第一部 式典 ダイヤモンドルーム（ガスビル7階）

開会

- 黙祷
- 支部長挨拶
- 祝辞
- 永年会員表彰
- 記念事業「60山ラリー」表彰

東海支部長 高橋玲司
日本山岳会会長 古野 淳 他

第二部 講演会

I ヒマラヤ マカルー峰南東稜初登攀 50周年記念講演（1970年東海支部）

『その先には、もう高いところはなかった』

— 東海支部の原点、マカルー（8463m）南東稜初登攀の秘話と再評価 —
マカルー隊員 元日本山岳会会長 尾上 昇

II 『ピオレドール賞3度受賞して』

— 現代ヒマラヤ登山の最先端を語る —

講師 平出和也 氏

第三部 懇親会 レストラン「ガス燈」（ガスビル8階） 会費 6,000円

- 開会の挨拶
- 乾杯の音頭
- 歓談
- 中締め
- 閉会（午後8時 終了予定）

山岳古道事業東海支部委員会報告

支部古道調査委員会委員長 西山秀夫

6月末の支部報配送時にメンバーを募るチラシを同封したところ、杉山雄彦さん、山田昌子さん、熊谷美喜子さん、佐原光子さん、鈴木富雄さんの5名が手をあげて来られました。ありがとうございます。メンバーについては引き続き募ります。

山岳古道調査事業のメンバーに求められるスキルと考えられる活動のイメージは1、ヤママップ、ヤマレコなどのGPSを使いこなし、軌跡を記録し取り出すこと。

2、地形図の破線路と現在の歩道、山路との誤差、相違、崩壊によりできた廃道部分なども調査したい。植生、地質、山の利用度合等。

3、古道の歴史、民俗、著名人が越えた時代背景などの文献調査と地元での聞き取り調査。

4、対象となる山岳古道を含む行政機関の教育委員会へのあいさつ、博物館、郷土資料館などを訪ねて山岳古道調査事業の意義を説き、調査への協力を要請すること。

5、候補地は本部と東海支部のWEBミーティングにおいて

・三河地区 **伊勢神峠**・・・飯田街道（塩の道）の難関だった峠。

・鈴鹿山系 **八風峠**・・・京都・滋賀支部は根の平峠一択になり、競合しないので東海支部でやります。どちらも鈴鹿峠の間道でした。

・伊那谷 **小川路峠**・・・松濤明『風雪のビバーク』の中の名文「春の遠山入り」であまねく知られた古道です。秋葉道、車が通行できない国道256号線でもあります。

・紀伊山地 **尾鷲道**・・・晩年の松浦武四郎が大台ヶ原開拓のために利用した古道です。登山口の一部が不明瞭になっています。

以上が課題になりました。又、世界遺産になった**熊野古道**を除外するわけにはいかない（本部・近藤PT）、古代の東西を結ぶ東山道の**神坂峠**も外すわけには行かない（同）との意見が錯綜中です。

この内小川路峠は西山が個人で推奨しました。信濃支部は関心が無く、本部と合同で調査にかかることになる見込みです。

というわけで、まだリアルな会合を開催できない状況下ですが、WEBミーティングで概ね

形は出来つつあります。コロナの終息とまでは言えないが、高齢者の死亡者数は激減しており、タイミングを見て実地に入りたいと考えています。



登山口に立つ案内板



伊勢神宮遥拝所の建屋の建築は立派な千木もあり、今も信仰が続いているのだろう。遥かに伊勢湾が見下ろせるという。



豊田市明川町側からの伊勢神峠・連谷町側には馬頭観音がある。重たい塩を運んだ荷馬への供養である。

東海岳人列伝(20)

ヒマラヤへの夢追い人・石川富康

編集委員 西山秀夫

エベレスト登頂は人生の目標足りうる山
エベレストはチベットとネパールの国境にまたがる。標高8848mの世界最高峰である。世界中の登山者が山頂を目指してネパールとチベットを訪れている。

ホームページの「エベレストが“特別な山”である11の理由」から引用すると

「エベレストの存在が初めて世界に知られたのは1841年に行われた大三角測量（Great Trigonometrical Survey）で、当時はピーク15（Peak XV）と呼ばれていた。

1856年、アンドリュウ・スコット・ウォーによってピーク15が世界最高峰とされ、測量開始時のインド測量局長官ジョージ・エベレストにちなんで同山を「エベレスト」と名付けた。しかし、その時彼はすでに退官しており、エベレストを実際に見たことはなかった。

今も、多くの人々がこの山を伝統的な名称、「チョモランマ（チベット語で“大地の母”の意）」、または「サガルマータ（サンスクリットに由来する語で“大空の頭＝世界の頂上”の意）」と呼ぶことを好んでいる。」

これまで4,000人を超える登山者がエベレスト登頂に成功している。近年は超高額なプロフェッショナルウェアやハイテク装備に助けられ、毎年600人以上が山頂に到達している。

それでは石川さんがエベレストの頂上に立つまでの道筋を時系列で追いかけてみよう。まさに人との出会いであった。一途にヒマラヤへの夢を追いかけた男だった。聖書の「たたけよさらば開かれん」であった。

生涯の師・磯村義宣氏との出会いと

拠点となる碧稜山岳会の誕生

石川富康氏がエベレストの存在を知ったのは16歳のときだったという。昭和28（1953）年5月29日の英国の世界初登頂の記録映画「エベレスト登頂」を見たときだった。これで大きな感動を得たのである。

そして3年後の昭和31（1956）年5月9日、JAC日本隊がマナスルに世界初登頂を果たした。丁度20歳の頃だった。「マナスル初登

頂」の映画を見るために何度も映画館に通ったという。

以後、3人寄れば山岳会と呼ばれたごとく登山ブームを背景に雨後のたけのこのごとく山岳会が誕生した。既存の山岳会もあったが適応しにくいとの理由で新しい拠点づくりを模索した。

1959年、22歳の時、碧稜山岳会が誕生した。『50歳からのヒマラヤ』の出版記念会で、石川さんは磯村氏をして「岩場のグレンドの練習において、手取り足取り教えてもらった」との思い出を語られた。磯村氏は高校教師であったが、良い指導者が得られなくとも自分たちの力で冬の穂高などに登攀できる登山技術を磨こうと、教育者らしい一面を見せて導かれていった。それから厳冬の穂高岳の登攀をものにしていった。仕上げとしてヨーロッパアルプスにも初めて遠征した。

湯浅道男氏との出会い

27歳で湯浅道男（1937～2018 第6代東海支部長1990～1994）に出会った。早稲田大学から愛知学院大学の助手として名古屋に赴任してきた。湯浅氏は名門早稲田大学とはいえ、第二法学部から成績優秀で特待生になり、第一法学部に移籍し、法学者にまで上り詰めた苦勞人だった。年齢は1歳下で、ともに強い克己心の持ち主である。この辺りが石川さんと気脈が通じたのであろう。

良い仲間を得て、すっかり登山に打ち込んでしまい、就職口がない。収入を求めて転職を重ねた。そして昭和41（1966）年29歳で、刈谷駅前に登山用具店「穂高スポーツ」を開



業した。折からの日本百名山ブームで登山が盛んになり、中高年登山者が激増し、店も繁盛した。

30歳代から40歳代は4000m級から6000m級の海外遠征の3回ほどの記録があるが、商売も多忙だったかも知れません。登山の明確な目標を失うと20歳代は45kgだったのが46歳で86kg、ウエスト96cmの肥満体質になった。

1985年(48歳)、モンベル主催のイベントで創業者・辰野勇社長(1947～、当時は38歳)に出会い、ヨセミテに行く。ここで辰野氏の現役バリバリの登攀の姿に刺激されてしまう。肥満体質の体を抱えながらも若い頃の血がよみがえったのである。

エベレストは気高い心を持つ者だけが登る資格がある(松方三郎)というが、磯村師匠との出会い、盟友となった湯浅氏との出会いが石川氏をエベレストの頂上への道を拓いたのである。

湯浅氏に宛てた奥山章の遺言

「エベレストへ登れ」

三河人同士の鈴木常夫氏が石川さんに寄せた追悼文から引用させてもらおう。鈴木氏は常々、三河弁で「(支部の役員、指導者として)おれんたちや、今まで他人の世話ばかり焼いて来たじゃん、これからは自分たあの登山をやりたいじゃんねえ、のんほい」とよくつぶやいていた。支部報161号から「東海支部の奥三河集会の席上、このままでは山から遠ざかってしまうなど嘆き節が出た際、50歳でもう一度ヒマラヤへ出かけようと誰からとも



湯浅道男氏



辰野 勇氏

なく話が出て数名が手を挙げたが、まず体力が問題になった。石川さんの提案で体力測定から始めることになった。隊員で愛知医科大学に勤務していた本庄医師が大学に併設している「運動養育センター」を紹介してくれた。測定の結果は「自己評価が測定評価を上回っていた」簡単に言えば、「普通のおじさん、おばさん」と測定された。そこで、当時営業していたレッツスポーツの低圧室で5000m近くまで減圧トレーニングも加えたりして、目的の山はまずは既登峰から始めることにした。

そのあたりの経緯は、石川さんが1996年、山と溪谷社から出版した「50歳からのヒマラヤ」に詳しく書かれている。石川さんは1988年から始まったインドヒマラヤの6000m峰2座に登頂した後、1991年にシルバータートル隊に参加、54歳でチョー・オユー峰(8201m)に登頂。初めての8000m峰登頂となった。1993年にインドヒマラヤのメントーサ峰(6443m)登頂後は、1994年57歳で愛知学院隊に参加、エベレスト峰(8848m)のバリエーションルートの南稜から登頂に成功。その後は堰を切ったように同じ年にダウラギリ1峰(8167m)。1995年シシャパンマ中央峰(8080m)。1996年マナスル峰(8156m)。1998年ガッシャーブルムII峰(8035m)と立て続けに8000m峰5座に登頂した。ここでひと息つくかと思いきや2002年エベレスト峰に北稜から登頂した。

2003年からは7大陸最高峰に挑戦を始め、2008年1月21日南極大陸最高峰ヴィンソン・マシフ(4897m)登頂で計画は達成した。最高年齢記録を更新してギネスブックに認定された。その後は、愛知県山岳連盟会長を務め後進の指導に努めた。」以上。

上記の愛知学院隊の隊長はほかならぬ湯浅道男氏であった。友情に支えられたのだ。

湯浅氏は高卒後に不遇な零細企業勤務時代に知ったクライマー奥山章(1926～1972)の信奉者だった。RCC IIを創立した天オクライマーとされる。癌におかされ昭和47(1972)年に自死。枕元の湯浅氏宛ての遺書には「エベレストに登れ」と書いた。以来、自分のことよりも後輩をエベレストに登らせることが使命となる。高校野球で目標を失いふてくされていた不良少年の自分を岩登りで人生を拓いてくれたのが奥山章だった。恩返しのごとく

裏方に徹したのである。湯浅氏との友情なくして登頂はなかった。



『50歳からのヒマラヤ』

南極の登山には後日談がある。「南極地域の環境の保護に関する法律の定めにより、南極に行くには環境省への届出・探検計画の申請が必要となっている。2008年1月28日に日本人女性として初めて歩いて南極点に到達した登山家統素美代、2008年1月21日に南極最高峰のヴィンソン・マシフに登頂し7大陸最高峰登頂を達成した石川富康は、この事前届けを出していなかったためそれぞれ環境省から事情聴取を受けた。2人とも「海外の代理店に任せており、法律を知らなかった」と反省した。同省環境保全対策課は「南極を守るための法律で、2人には講演活動などを通じ、取り決めの意義を周知してもらえれば」と話し、罰金などは科さず厳重注意処分とした」（ウィキペディア）以上

三浦雄一郎氏を刺激した石川富康さん

1936年生まれの石川さんは1994年に57歳でエベレスト登頂。1994年5月13日 - エベレスト

[南東稜] (8,488m/ネパール) 登頂。(愛知学院大学隊:鈴木晴彦, 熱田渉, 石川富康)。その後、2002年5月エベレストに登頂し、世界最高齢記録を更新(65歳176日)、ギネスブックに認定された。

2008年1月南極大陸最高峰ヴィンソン・マシフに登頂し、7大陸最高峰登頂を達成、世界最高齢記録を更新(71歳59日)、ギネスブックに認定された。

石川さんの成功を見て、三浦雄一郎氏が堰を切ったようにヒマラヤに挑戦を始めた。

日本の冒険スキーヤーにして登山家、三浦雄一郎氏 (1932~) は当時70歳で2003年5月22日、世界最高峰のエベレスト (海拔8848メートル) 登頂に成功、最高齢登頂記録を更新した。息子・豪太とエベレスト同時登頂! 石川さんの登頂した1994年に65歳で決意した。独自のトレーニングを積み、世界最高齢70歳で制覇した。その後80歳での登頂も成功させた。

閑話休題。登山家・石川富康さんは「私は登山する前には絶対に歯科医院に行くよ。だって高度が高いところはちょっとした痛みも物凄い痛みを感じるから・・・歯痛で長年の夢をあきらめることはできないよ」と神経質な一面を見せる。

ところが、一部には石川さんのエベレスト登頂を祝わない人もいた。曰く、あの人は子供がいないからね、若い人に手を引っ張ってもらっての登頂に価値があるか、など矮小化する人もいた。

登山は若いうちだけのものと打ち込んで実績を挙げて、結婚、家庭重視、会社員に埋没した登山家は多々いる。中年になり出世競争の先が見えた頃に登山に復帰した人にはもう追いつけない。嫉妬心であろう。登らせてもらうには諦めないでアイゼンの爪を研ぎ、カネを貯め、登山から一時も離れないことなのである。気高い心を持ち続けることであった。

石川さんの体力の衰えは愛知岳連のスキー大会で思い知らされた。石徹白のスキー場で行われた岳連スキー大会のグレンデの雪固めでも、開脚登高で何度も往復したタフな体に驚嘆した記憶がある。ヒマラヤに行くにはあ

れだけのタフさが要るのかと。

体づくりはストイックに86kgあった体重を58kgに絞る。連日、南山の岩場や猿投山に通ったとか、キャベツの常食でダイエットしたなどを側聞した。ある宴会ではげそつとやせこけた頬を見て誰もが癌じゃないか、と心配した。石川さんは笑って否定したが、内心はヒマラヤへの情熱に燃えていたのだった。これをストイシズムと言わずして何とすべきか。私は求道者ではないかとさえ思ったものである。その成果は富士山を2時間30分で登ったという。私なら4時間以上はかかるだろう。

原稿を書くにあたり改めて奥山章遺稿集『ザイルを結ぶとき』（ヤマケイクラシックス）を読んだが、帯封の「アルピニズムの発展を願い夢を追い続けた奥山章の生涯」に目が張り付いた。自死して湯浅氏に霊が移り、そして石川氏に受け継がれたのでは。否、私の妄想であります。

経歴

1936年11月22日 - 愛知県に生まれる。

1991年9月28日 - チョ・オユ-〔西壁〕(8,188m/チベット)登頂。(シルバータートル隊:石川富康,渡辺玉枝,池田錦重,根津完一)〔2〕

1994年5月13日 - エベレスト〔南東稜〕(8,488m/ネパール)登頂。(愛知学院大学隊:鈴木

晴彦,熱田渉,石川富康)

1994年10月1日 - ダウラギリ(8,167m/ネパール)登頂。(シルバータートル隊:石川富康,小西政継,渡辺玉枝,池田錦重)〔3〕

1996年9月27日 - マナスル(8,156m/ネパール)登頂。3日後同じ隊の小西政継が登頂後遭難死。(シルバータートル隊:石川富康,小西政継/登稜会隊:三村雅彦,杉山敏康,有川博章)

1998年7月22日 - ガッシャーブルムII峰(8,035m/パキスタン)登頂。(シルバータートル隊:石川富康,森山勇,村口徳行,根津完一,渡辺玉枝,米山悟)

2002年5月17日 - エベレスト〔北稜〕(8,488m/ネパール)登頂。世界最高齢記録更新(65歳176日)。(桐生山岳会隊:宮崎勉,石川富康)

2003年6月23日 - マッキンリー(6,194m/アメリカ)登頂。

2005年8月23日 - エルブルース(5,642m/ロシア)登頂。

2006年1月7日 - アコンカグア(6,962m/アルゼンチン)登頂。

2007年5月13日 - カルステンツ・ピラミッド(5,030m/インドネシア)登頂。

2007年9月10日 - ?キリマンジャロ(5,895m/ケニア)登頂。

2008年1月21日 - ?ヴィンソン・マシフ(4,897m/南極大陸)登頂。七大大陸最高峰登頂達成。

東海支部俳壇

西山秀夫

5/19 野伏ヶ岳捜索ボランティア
夏霧に隠さうべしや野伏ヶ岳

5/23 賤ヶ岳から山本山縦走
夏木立縫ふごとく行く湖北かな

笹寿司を食ふサーモンの具の旨味

5/30 設楽町・澄川廻行

夏の夜や設楽の山の奥の池

澄川を遡る滝飛沫浴び

老いの身に冷たき夏の沢を行く

6/1 石原先輩から手紙とお菓子受贈
列伝が縁の便りや夏の宵

6/18 学能堂山ハイキング

万緑にひそと咲く紅山芍薬

卯の花の純白目にしみるやう

沢蟹にふるさとの山想ふ

梅雨の山名峰なべて曇り勝ち

梅雨空に毅然と浮かぶ高見山

夏山やげにピラミダルな局ヶ岳

7/18 行市山から三方ヶ岳へ

国境に白ぶなを見し夏木立

ササダニや汗の体にしがみつく

炎天の北陸本線塩津駅

近江には戦跡多し夏の山

私の山行

支部員 杉山雄彦

私が初めて山登りをしたのは伊吹山。高校生になる前の春休み。自然観察のグループについて行ったのだ。登山途中、偶然化石(ウミユリ)を見付け、興奮冷めやらぬうちに今度は頂上の小屋で同じようなものが、30円で売られていたものを、重さのことを全く考えず全て買い、皆の心配をヨソに背中をアザまるけにして帰ってきた。化石達はつい最近まで、思い出と共に我が家の塀に“飾り物”として住みついていた。高校生になってから、近所の同級生と学校の山岳部に入り、月1回土曜日に学校から帰るとすぐに中央線で上松駅～金懸小屋で泊り、翌日木曾駒ヶ岳へ登りフラフラになって帰宅。学校からはキチンと届けてから行けど、再三注意を受けながらも楽しく登山を続けていた。春休みなどは、2人でテントを背負って鈴鹿縦走(藤原岳→御在所山)をしたり、夏には先輩達に誘われるままに北アルプス方面にも出かけた。尾根歩きの途中、突然の雷雨、稲妻が何度も横から襲ってくるのには度肝を抜かれ、生きた心地がしなかった。今でも雷が鳴ると当時のことが瞬時によみがえる。社会人になってからは、湯の山温泉に山の家を持っている取引先の人達と、藤内壁を見上げながら御在所山(裏道)へ登り、近くの山々の尾根歩きを楽しみ、大汗をかく快感を味わう日々が続いた。

ところが55歳の夏、妻とツアー登山で西穂高岳へ行った時下山途中、団体グループを小走りでカッコよく？追い越したつもりが、突然靴底が剥がれ転倒滑落し、左足首と左膝そして右手に大怪我をしまい、約1ヶ月歩行すらできなくなり、仕事もできず、「いつも危ないことばかりしやがって・・・」と両親に大目玉、を食らい、完治するまでは給料0円の宣告を受け、山の用具も全て処分、金輪際山登りとおまけにGOLFとも縁を切ることになってしまった。リハビリを兼ねて移動は三輪自転車、車の移動は運転手をW社に委託。W社とはJICAでのボランティアや車両運用効率化に関してすでにご縁があった。

後日知ったことだが、W社は東海支部の仕事



窓に映える景色を好んで写していました

るとか時間が不規則等々の理由で「お断りしたい」という社内の声が、部外者の私にまで聞こえていた。偶々会社訪問をした時、事務所でちらっと見えた書類に、尾上昇という氏名を見つけ、即、「山岳会を断るって？月3回？それなら全部私に任せてちょう」と伝えた次第。尾上昇氏は東海高校の先輩、そして青年会議所(JC)活動では、尾上専務理事・杉山総務室長という間柄だった。ここから車道楽、免許マニアの私が、営業バスの運転ができるという、趣味と実益？を兼ねての関りが始まった。以来山岳会関連の山行は、18年にわたり638回、関連グループの山行をプラスすると約660回にもなる。当時W社からは、目的地に着いても、絶対に山登りやスキーはダメ、バスから離れると職場放棄になりクビだ！！と強く言われていたが、行く先々のほとんどの歴史民族資料館の見学、名物料理や旬のものの賞味などは、そつなく堪能した。

現在コロナ禍云々という社会問題。奥美濃平家岳へ行った時のことを思い出した。当時(平成18年11月3日)の日記には“面谷(おもだに)の歴史など学習することができた。石碑には大正年間に銅山として栄えたが、流感(インフルエンザ=成金風邪 なりきんかぜ)で約1000人が死亡、鉾山の下火と共に皆、山を去った。”と流行り病のことが載っていた。志賀直哉の『流行感冒』という小説のことを思い出

した。大正年間（約100年前）当時はスペイン風邪が猛威を振るった。世界でおよそ5000万人が死亡。日本でも約40万人が亡くなったらしい。

ところで、大型二種免許をもつということは、緊急時対応の講習も受けているので、重症の怪我人が出た時にも救急隊の人達と相談し、落ち着いて十分お役に立つこともできた。会員の皆様と交流が深まると共に、台湾の玉山（旧新高山）、濟州島のハンラ山、また、ネパールでのマナスル60周年の記念式典、おまけにヒマラヤトレッキング（ポカラ）に行く機会も与えてもらった。そして最近、永年家裁の調停委員をしていた関係で、少年の更生の為の身柄付補導委託登山を東海支部でお手伝いさせていただくことになり、年2回ボランティア委員会の一員として関わっている。

昨年来何かと自粛の日々、取締役隠居？に

なり、僧籍への道を求め大学に入ったが、癌が見つかり、陽子線治療を受けた日々。何とか回復し、現在も仏教を学んでいるが、チベット大藏経、河口慧海先生が出てくるとまた、ヒマラヤの地図に戻り脱線してしまうが、これも楽しいものだ。50年程前、イスラマバードから北京への直行便に搭乗した時、眼下に見えた夕日に映える金色のK2峰一帯、今思うとあれは極楽浄土のような景色だった。

今、老体を労り、「終活」をしながら地域貢献に励む日々である。



東海支部の蔵書からの一冊②

図書委員長 石田文男

『日光と枯草』〔自然と人間シリーズ12〕

著者・尾崎喜八 編者・串田孫一

この夏は暑かったのか梅雨っぽかったのか。だが、8月も下旬になってそれらしい暑い日が続いた。同時に蔵書紹介原稿の提出が迫ってきていた一日、高い雲の下に秋の風が靡いていった。

この書は著者没後に出ている。同じ頃出た詩文集第十巻の『冬の雅歌』の編集を伊藤海彦とした串田孫一によって編まれたもので、編集覚書で「その書名をそのまま使ったこの本は、これまで単行本に入っていない原稿を主とし、それに既刊の『さまさまの泉』『私の衆讃歌』『夕べの旋律』から三十三篇を選び加えて編集した。だが、創文社から刊行された『尾崎喜八詩文集』（全十巻）の内容とは全く重複していないので同詩文集を補うものである」と述べているように、どの一篇もが〈詩・音楽・高原〉を彷彿とさせてくる。

〈山と心〉の一節。《尾崎君、汽車に乗っても二十分の一の地形図はいつでも手から離さずに、今自分の汽車が何処の地点を走っていて、今渡った大きな河が何という河であり、窓から見える向こうの山が何という山かとい



う事を、面倒臭がらずによく調べるんですよ」と当時或る地理学の大家から教えさとされ

てそれを正直に実行していた》……。《尾崎さん、それはまるで地理の勉強でちっとも旅行でも遊山でもないじゃありませんか》と……。大げさに言えば、私の山への旅はいつでも何かしらの勉強のためだった。地理学の、動物や植物学の、地質学の、実地における見学だった。だからこそいつでも朝の出がけに、幼稚園へ行っている長女に「お父ちゃん、いろんな物をよく見てきてね！」と言われたのだ。その代わり帰って来れば、ノートや小さな標本を材料に、その娘や妻にいろいろな話をしてやる事もできれば、後になって自分らしい特色ある紀行文を書くこともできた》

ここを読みすすんでいると、名文を凝縮して多くの登山者と旅人に読まれ、影響を与えたといわれる名著『山の絵本』の「たてしなの歌」が過ぎっていくのを感じながら、ただただ数多の詩文はここから生みだされていったことを思う。

本書は四つの主題をもち、六十二の項目で構成されていて、そのどれもにパッとページを繰ればつい読み始めてしまっている自分がある。「書棚の一角」「山と心」「忘れじの富士見高原」「ウェストン祭と女子学生」「山と音楽」……。かつて夢中に読んだ詩文集のように。

《大シラビソの原生林の中のほのぐらい静かな道を明神池の方へ歩いてた。するとウェストン祭に参加すると言う女子大生に追いついて、路ばたにしゃがみ込んで、そこに咲いている花の名を教えたり、さえずる鳥の……。その人は教えられた名や事柄をすべて克明に手帳へ書きつけた。……。明神に着くと、ウェストン祭の式の最後に朗読する詩をその池畔で作った。……。それが終わると例のサイン書きだった。其の中には今朝逢った女子大生もいて「今お読みになった詩は先程のとおりでした。もしも記念のために写させて頂ければ光栄でございます」と言った。私は快くその原稿を彼女に貸した》ここなどは読むたび、いつしか朝の静寂(しじま)の森に雪の穂高を垣間見ている自分がある。若き日に登った春雪の西穂高や霞沢が蘇えてくる。

こんな感じの文章で蔵書紹介になっているだろうかと自問する。

装備・道路・情報などすっかり様変わりし

てしまった昨今、読者の激減、こういう中であって実の本は読まれていくのだろうか。

山登りを続けていく中で、時にはこういう書物に触れるのも必ずや糧の一つになることを思っている。

このシリーズは第一巻の『山の文学紀行』から『山と森と人生と』の第十四巻まで出た。支部所蔵はこの十二巻のみだが、機会を捉えて心打つもの一つずつ読んでほしいと思う。

因みに、次を挙げておきたい。『自註富士見高原詩集』(尾崎喜八)所収「秋の漁歌」だ。《信州は南佐久、或る山かげの中学の／小使いさんが私のために網打ちに行く。

／千曲川もこのあたりではまだ若く／……。朝早い九月の水が浅々と流れている。／赤魚という鮠は川底の砂に腹をつけ／また尾を曲げて靡くように泳いでいる。／小使いさんの投網のさばき美しく／岩の上から腰をひねってさっと投げれば／網は朝日に虹を噴き／まんまるく空(くう)に開いてぱっさりと水をつかむ。……。／ざぶざぶと水を渡って岩から岩へ乗りうつり／川瀬の淀をじっと見据えて網を打つ。／私のびくは真珠いろとエメラルドの／びちびちする魚でもう重い／……

「とれましたなあ、／これならばお土産になりやす」といいながら》

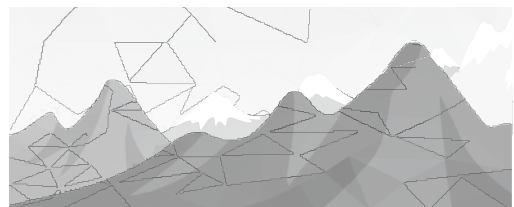
注釈にはこうある。《……。ある初秋に南佐久郡穂積の村の中学校に講演に行った。……。ここでは場所が場所ゆえ初めての八ヶ岳登山の話をした。……。そして次の日の朝がこれだった。しかし事の始終はここに書いたとおりだから改まって注釈の必要もあるまいと思う。……。それにしても小使いさんのその「おみやげ」の味こそすばらしかった》

ここはとくに好きな一節で、同所収「安曇野」とともにいつ読んでも新たな感動に浸る。

B6判318頁 発行：昭和52年10月31日

発行所：(株)スキージャーナル

〔自然と人間シリーズ¹²〕



TOPICS 1

實川欣伸さん富士山頂でエール

先月、静岡県内でのオリンピック聖火リレー走者を無事終えた實川欣伸さん。「今度は、オリンピック開会式の当日に富士山頂で聖火トーチを掲げ、選手にエールを送る」と宣言。7月22日の夜半から登り始め23日の早朝、山頂でユニフォームに着替え約束を果たされた。

当日は、4連休中で今夏一番の好天に恵まれたこともあり、山頂では大勢の登山客に囲まれ、一緒にエールを送った。富士山頂に聖火トーチを、という発想は、富士登山登頂回数最高記録を保持する實川さんならではの、居合わせたテレビ局の取材にも応じていたとか。



實川欣伸氏

支部員實川美樹さんのご主人(静岡支部員)。このことから東海支部員との交流も深い。富士山登頂回数の最高記録保持者として名を馳せている。ちなみに今回のトーチ登頂は、2084回目を数える。御年78歳。それを聞くと「もう年なので」は、恥ずかしくて言えない。

TOPICS 2

岩瀬幹生さん「トランスジャパンアルプスレース大 全」(山と溪谷社)に掲載される

キャッチコピーは『日本海から日本アルプス(北ア・中央ア・南ア)を越えて太平洋までを、8日以内に駆け抜けろ!』

選手は、交通機関を一切使わず、自分の脚のみで踏破しなければならない。また宿泊は露営のみ、というスタイルで行われる、ちょっとハードな山岳レースだ。

このトランスジャパンアルプスレース「略してTJAR」には、山岳レース(山旅)本来の楽しさと厳しさ、そして選手および選手を取り巻く人々の、友情と愛に満ちあふれている。

「トランスジャパンアルプスレース大全」(山と溪谷社)2021/7/5 初版発行 定価 2,420円



岩瀬幹生氏

会員番号 8805 ネパールなどの海外登山経験も豊富ながら、上記のレースの初代チャンピオンである。上記山岳レースの凄まじい体験談も聞きたいところではある。現在は TJRA 実行委員会の顧問でまとめ役。愛知県山岳連盟の副理事長。蒲郡山の会の代表を務める。

追 悼

箕浦さんの思い出

葛谷凱治

当会の評議員、デジタルメディア委員、写真展実行委員であった箕浦靖夫さんが令和3年8月24日に88歳の生涯を閉じられた。

僕が山を始めたのは職域山岳部であったが、仲間たちは転勤でだんだん少なくなり尻すばみになってきたから、どこかの山岳会に入る必要があった。いろいろ思案したが、名古屋YMCA山岳会に入ったのは昭和40年11月であった。この年の5月にこの山岳会は前穂高岳の北尾根で4名の死者を出す事故があったばかりである。雨降って地固まるという言葉があり、この遭難でこの山岳会もしっかり立て直しされるだろうという期待と、会社の先輩が入っていた（僕の入会した当時は転勤のため退会していた）ためである。名古屋YMCA山岳会というのは、当時、上前津にあった名古屋YMCAの中にあつたクラブの一つであった。

箕浦さんは、この時すでに会長であった。また、愛知県山岳連盟の常任理事、指導委員会委員長という要職に就いていたが、この事故以来山岳連盟からは一切身を引いてしまった。

このころ、僕は約400名の労働組合の書記長（専従）であった。そのため、僕の組合が推薦する政党と箕浦さんが支持する政党が違ふため、いつも議論していた。山行の休憩の時やテント場に着いた時などよく議論した。議論を仕掛けてきたのは、いつも箕浦さんであった。

ほどなく僕は推されてYMCA山岳会の事務局長になった。会長の箕浦さんとは、運営方法を巡ってしばしば議論した。年1回開かれる総会でも、会員をそっちのけで、会長と事務局長が延々と議論をし、わずか数十人の会なれど2時間も3時間も要した。

箕浦さんは、万事に厳しく妥協を許さなかった。そのため、それに反発して会を去っていく会員もあった。

僕は、昭和48年に静岡へ転勤になりYMCA山岳会や日本山岳会とは疎遠になった。（会費だけは払い続けたため今年度令和3年、日本山岳会の永年会員になれました）



その後、昭和49年2月に八ヶ岳で3名の会員を雪崩で失った。これを機会に名古屋YMCAから山岳会の活動に制約が出ることになった。「岩登りはだめだ」「冬山はだめだ」という風に・・・そこで会員たちは、名古屋YMCAを出て新たな山岳会を創ることになり愛知山岳会と名乗って今日に至っている。

箕浦さんは、平成23年に軽い心筋梗塞を患い、この時以来自分の身を案じ愛知山岳会の会長職を後進に譲った。

僕は会社を定年退職してから日本山岳会と愛知山岳会の活動を再開したが、山に登ることより写真に軸足を置いていたので、愛知山岳会の行事には新年会と総会くらいしか出なかった。日本山岳会のほうも新年会や総会に出ているうちに、誘われて写真展実行委員会にかかわるようになった。

この写真展実行委員会にすでに箕浦さんが関わっており再び親しく接することになった。ここで接する箕浦さんは好好爺やという感じで優しく接しやすかった。

この間において、箕浦さんは当会の評議員を平成15年以来であり、自然保護委員長は平成22年～23年、森の音楽祭実行委員長は平成25年～30年、写真展実行委員長は隔年とは言ふものの平成17年～23年まで務められた。

箕浦さんの山の活動の中で他に、AJCSS (All Japan Climbers Ski Symposium) がある。これは岳人たちのスキー大会である。

昭和36年に名古屋山岳会の加藤幸彦さん

と高田光政さんがスキーの腕前(足前?)を張りあったことがあり橋村一豊さんが仲に入り八方尾根でレースをやることになった。第1回目は東西の名だたる岳人24名が参加し、橋村さんが優勝、高田さんが3位、加藤さんは欠場だった。

この時から箕浦さんは、名古屋山岳会の大口瑛司さんとこの大会の世話役となり、平成22年の第50回解散大会まで尽力された。

箕浦さんの成績は、回転、滑降、総合の3種目の中で、優勝2回、2位2回、3位2回となかなかの成績であった。

箕浦さんのもう一つの活動に写真がある。日本大判写真協会や白簾史朗さんが主宰された白い峰の会員として活躍された。トヨタのハイエースの内装に手を加えて、キャンプ用品を積み込んで車の中で寝られるようにして、全国どこへでも行かれた。夏は北海道で空き家を借りて1ヵ月くらい滞在することもあった。

箕浦さんは名古屋YMCA山岳会や愛知山岳会の会員には厳しかったが、会員が海外登山隊に参加するときには、会員の勤務先の社長に直談判して参加の許可を取り付けるなど、面倒見の良いところもあった。

写真展実行委員会では、年末に上高地での撮影会の世話役をいつも引き受けていただいた。

そして僕が最も感心するのは、箕浦さんには、厳しい登攀、海外登山、著書などないにもかかわらず山にしる、写真にしる、人ととの交流の広さである。

しかし、箕浦さんが88年の生涯を閉じるにあたって、最も心に残ったのはやはり山での事故であろう。前述の昭和40年5月の前穂高岳、昭和49年の2月に八ヶ岳の他、昭和43年7月に錫杖岳で1名を失っている。いずれもの事故時には、箕浦さんは現場にいなかった

時の事故である。50余年と長く会長職にあっただけに、そのつらさは筆舌に尽くせぬものがあつたと思われる。冥福を祈る次第である。

なお、AJCSSの項は鈴木茂三さんの助言を得ました。紙上を借りて謝意を表します。

哀悼！箕浦靖夫氏8月24日ご逝去

西山秀夫

2009年は中日新聞社から上梓した『東海・北陸の200秀山』(上下)の編纂に大いに汗をかいた。10月20日の定年退職日まで一ヶ月の未消化の有給をつかい新聞社の編集部に通い、編集部の人らと夜遅くまで仕事した。約80名以上の執筆者から続々送られてくる原稿と写真を規定の文字数に割愛したり、原稿を補ったりした。

最後に本の表紙の写真はどうか。尾上評議員が箕浦さんに頼めということになった。箕浦さんが大役を担い、自慢のカメラで撮影された。中々渋い構図でアーベントロートの御在所岳を中心に鈴鹿の山並みをおおらかな構図で切り取られた。

上下2冊並べると御在所岳と鎌ヶ岳が並ぶ絵になる。写真右は御在所岳、左は鎌ヶ岳。あれから12年が経過していた。この本の表紙を見る度に箕浦さんを思い出すがになる。支部活動では、猿投の森づくりの会、東海岳人写真展など多くの足跡をのこされた。享年88歳だった。



写真家の箕浦さんを忘れぬや
二百秀山の鈴鹿のやまなみ

すばらしき岳兄たち(4)

支部員 杉浦吉治

高橋銃十郎さんは、中学時代から山歩きの楽しさを知ったものの、農林水産省本省在職時代はご多忙のため山から遠ざかっていた。高知営林局長時代に四国の山々を中心に山歩きを再開し、1991年に農林漁業信用基金に移ってから、長年の夢であったスイスの山歩きを始めた。

語学の達人な潮(うしお)奥様といつもご一緒で、現地ガイドとも家族ぐるみの付き合いをされるほどスイスに通われた。そして、4度目のチャレンジで念願のmatterホルンの登頂を果たすことが出来た。57歳の時である。



高橋さんは、matterホルン登頂後『五七歳の頂上—matterホルンに魅せられて』(1995年、山と溪谷社)を出版された。

私は、99年のモン・ブラン登頂後はmatterホルン登山の準備に取り掛かり、高橋さんの著書や他の資料を集めて読んでいた。その結果、2000年8月幸運にも1回目で登頂することが出来た。

翌年、高橋さんへのお礼のつもりで賀状を差し上げたところ、奥様とのほほえましいクライミング中の丁寧な賀状(写真)を頂いた。これがきっかけで文通が始まったわけである。

それ以降、高橋さんからは心温まる近況や知性溢れる、また興味深い『映画鑑抄—山男の映画館がよい』、『鏡ヶ浦の夕陽を望みつつ〜房日新聞・紀行文〜』、『来し方を振り返る〜故郷となりし房州にて〜』他多数の著作を贈っていただいた。

私は、何度か日本山岳写真協会展(都美術館)の案内を差し上げてお目にかかれるのを楽しみにしていたが、ご多忙のうえに何分にもお住まいの千葉県館山市からはあまりにも遠く、なかなかそれは叶わなかった。



ところが、2004年1月突然奥様が他界されたとお知らせを頂いた。私は、高橋さんをお慰めする言葉が見つからず、日の出直前と朝光に輝くmatterホルンの写真2点を奥様のご霊前に供えていただくようお送りした。高橋さんからは、「潮への何よりの供養です」という丁寧なお礼状をいただいた。

潮奥様は、館山市で館山百合幼稚園の園長として大変なご活躍をされていた。館山市は1958年から米国ワシントン州のベルリン市と姉妹協定を結んでおり、隔年ごとに交換訪問をしているという。また、園開設まもなく、語学が得意な奥様が教師として園児に英語教育などユニークな教育をされてきた。奥様を亡くされてからの高橋さんはすっかり元気をなくされたが、奥様のご遺志を継いで、役人生活から一変して幼稚園の園長として幼児教育にその力を注いでこられた。

その後も高橋さんとの文通は続いたが、2015年頃から何故か賀状も届かなくなった。ご多忙なのか体調でも崩しておられるのか気になっていたのですが、17年の暮れに館山百合幼稚園の様子をネットで検索してみた。信じられないことに、高橋さんは前年の12月に他界されていた。お元気なうちに一度お会いしておけばよかった、と悔やまれること頻りである。

今頃は天上で、潮奥様と仲睦まじくmatterホルンを眺めておられることであろう。おふたりのご冥福を心からお祈り申し上げます。

人生の九合目に差し掛かった私は、「人生における最大の財産は友である」、としみじみ実感している今日この頃である。そして、山に、友に、感謝、感謝の日々を過ごしている。

60山ラリー登頂経過報告

60周年記念国内事業担当 大関真耶

60山ラリー状況(8月29日現在)

新型コロナウイルスによる規制に加え8月の長雨と、依然として予定通りの山行は難しい時期が続いていますが、右記の通り達成者数は着実に増加しています。60山ラリーは2021年9月末で、活動期間が終了します。

登録忘れ等ないか、今一度ご確認ください。

最後まで楽しんで達成を目指そう！

引続き皆様の安全登山を祈念致します。

1、コース別達成者数

進捗状況(下記表参照)

8/29現在、登録者数115名、合計登頂数6,842座、合計標高6,035km、100山以上の登頂者23名。チャレンジを含めた各コースの達成者は前回(5/25)に比べ16名増加。全コース達成者も2名となりました。

登頂登録のお願い

*自分のPCで登録の方⇒10/7中に！

*ハガキで登録の方⇒ルームへ10/7中に届くようお願いします。

全コース達成者	2名(栗木洋明、山田明美)
100高山	3名(栗木洋明、鈴木愛子、山田明美)
一等三角点	3名(栗木洋明、山田明美、石井仁)
愛知県の山	32名(栗木洋明、天野倅明、前田隆久、山田明美、石田誠、大島巖、磯部隆、井上寛之、水野猛志、熊谷美喜子、川崎禎明、川崎明子、川瀬真知子、前田芳子、榊将美、滝清子、石田伸郎、遠藤忍、櫻井恵美子、岡本昭子、森本真由美、石井仁、酒井大輔、杉村正博、堀端静夫、中島美枝、松尾久美子、岩間洋子、豊田由香、伊与田玲子、川島節子、池戸美恵)
岐阜県の山	6名(栗木洋明、遠藤忍、大島巖、酒井大輔、山田明美、木村孝保)
三重県の山	4名(栗木洋明、石井仁、山田明美、酒井大輔)
静岡県の山	3名(栗木洋明、山田明美、石井仁)
チャレンジ	51名(栗木洋明、山田明美、石井仁、酒井大輔、遠藤忍、大島巖、堀端静夫、川崎明子、石田誠、水野猛志、川崎禎明、榊将美、前田隆久、磯部隆、川瀬真知子、熊谷美喜子、天野倅明、伊与田玲子、井上寛之、林須美子、滝清子、前田芳子、岡本昭子、櫻井恵美子、杉村正博、中島美枝、鈴木浩、光崎晋、池戸美恵、松尾久美子、伊藤稔、岩間洋子、石田伸郎、平井まり、森本真由美、六郷孝也、大口恵子、近藤政仁、大倉昌美、川島節子、谷口直子、豊田由香、木村孝保、鬼頭則俊、鈴木愛子、鈴木慎吾、山田昌子、横地達夫、倉橋智司、福井雅子、吉田清)

2、コース別登頂数ベスト5

100高山	栗木洋明(68)	鈴木愛子(63)	山田明美(60)	堀端静夫(34)	酒井大輔(23)
一等三角点	栗木洋明(74)	山田明美(70)	石井仁(61)	酒井大輔(59)	遠藤忍(56)
愛知県の山	栗木洋明(125)	天野倅明(120)	前田隆久(108)	山田明美(107)	石田誠(104)
岐阜県の山	栗木洋明(87)	遠藤忍(70)	大島巖(69)	酒井大輔(67)	山田明美(65)
三重県の山	栗木洋明(84)	石井仁(63)	山田明美(60)	酒井大輔(60)	石田誠(32)
静岡県の山	栗木洋明(73)	山田明美(60)	石井仁(60)	酒井大輔(17)	川崎明子(16)
チャレンジ	栗木洋明(453)	山田明美(375)	石井仁(272)	酒井大輔(254)	遠藤忍(196)

60山ラリー―登頂登録のお願い

1. 9月30日をもって60山ラリー登山活動期間が終了します。

9月30日までに対象山岳に登頂された方は、以下のように登録して頂くようお願いします。

*PCで登録されている方

10月7日中に登録を済ませてください。

*ハガキで登頂報告をされている方

10月7日中にハガキが支部ルームに到着するよう投函してください。

皆さんの登頂登録を受けて、委員会で10月10日までに最終結果を纏めさせていただきます。

2. 60山ラリー対象山岳山名冊子の配布

冊子の余剰があります！日頃の登山活動に活用して頂きたいと、配布しています。

ご希望の方は連絡いただければ、お渡し日、時間等追って連絡させていただきます。

*連絡先

担当委員・・・山田明美

連絡先・Eメール(yfd32147@nifty.com)

*連絡事項

氏名／連絡先(Eメール又は電話番号等)

／希望冊子数

創立60周年記念事業国内事業委員会

登山用具あれこれ①

リュックサックに装備されているチェストベルトについて

こんな機能があることをご存知でしたか？

今現在使われといるリュックサック(アタック型ザック)の多くにチェストストラップが装備されています。このチェストストラップは体とリュックサックの一体性を高めて、荷重による負担を少なく快適に背負うことを目的にするために装備されています。チェストストラップを締めることによってふらつきが無くなり長時間快適に背負って歩くことが出来ます。

このチェストストラップは肩ベルト上をスライドさせて体に背負ったときに適正な位置にセットすることが出来るように作られています。

適正な位置とは①肺を圧迫しなくて呼吸が楽にできる。②肩ベルトが窮屈に感じない。③胸を圧迫しない(特に女性)。④ふらつきを効果的に防止してくれる。



このことを考えると脇の下の位置、鎖骨の下5cm位が適正と思われます。上すぎると首が窮屈になりますし、下すぎると息がしづらくなります。締める強さは人差し指一本が内側に楽に入る程度が良いです。

大分前から装備されるようになったこのチェストストラップですが10年ほど前位からこんな形(写真)をしていると思います。これはチェストストラップの機能のほかに緊急時にホイッスルとして使われるように機能が追加された結果です。メーカーからも販売店からこういった機能が有りますよとのアナウンスを見たことがありませんので、こんな機能があることを知らない方が大半かと思います。緊急時に、人に自分の存在を知らせるときに使うと大変便利です。こんな機能があっても知らなくてはその時に何にもなりません。ふいのクマとの遭遇を避けるために使うのにも有効かと思います。いざとなった時に使うことが出来るように知っておいていただくと良いと思います。

既にお持ちのリュックサックにも付いているかと思いますが一度チェックをしてみてください。

装備委員会委員長 千葉泰丈

支部友コーナー

◆支部友委員会山行計画(令和4年1月~3月分)

※申し込み開始は山行日の3か月前から
締め切りは山行日の1ヶ月前です。

- 1月8日(土)☆☆
山域：鈴鹿山系 山名：入道ヶ岳
リーダー：榊 将美
- 1月9日(日)☆☆
山域：焼津アルプス 山名：満観峰
リーダー：今津英一朗
- 1月15日(土)☆
山域：袋井・掛川市 山名：小笠山
リーダー：近藤政仁
- 1月22日(土)☆
山域：渥美半島 山名：衣笠山・滝頭山
リーダー：倉橋智司
- 1月29日(土) 30日(日)☆
山域：八ヶ岳 山名：美ヶ原
リーダー：金谷正起
- 1月29日(土)☆☆
山域：御油・豊橋 山名：宮路山・砥神山
リーダー：磯部 隆
-
- 2月6日(日)☆☆
山域：鈴鹿山脈 山名：御在所岳
リーダー：高松信治
- 2月12日(土)☆
山域：西三河/豊田 山名：高根山・折平山
リーダー：榊 将美
- 2月13日(日)☆
山域：渥美半島 山名：雨乞山・大山
リーダー：水野猛志
- 2月19日(土)20日(日)☆☆
山域：北アルプス 山名：乗鞍高原・上高地
リーダー：金谷正起
-
- 3月5日(土)☆☆
山域：奥三河/王滝 山名：天下峰
リーダー：榊 将美
- 3月6日(日)☆☆
山域：鈴鹿 山名：霊仙山
リーダー：今津英一朗
- 3月13日(日)☆☆
山域：奥三河 山名：出来山
リーダー：倉橋智司

3月26日(土) 27日(日)☆☆

山域：敦賀三山 山名：野坂岳

リーダー：山田明美

支部友会員数(令和3年8月末現在)／49名

山行対象者 支部友会員及び支部会員

申込み方法 ・支部友会員は申込締切日までに、
各山行リーダーが示す方法で申し込む。

- ・締切日 原則山行日 20 日前まで。(締切日を過ぎての参加空き情報はリーダーに直接問い合わせ下さい)
- ・支部会員は申し込み締切日の翌日以降に、各山行のリーダーへ問い合わせる。
- ・山行の募集人員を超えない範囲で、支部会員の参加申し込みを受け付ける。

次回支部友ミーティング

開催内容のお知らせ

第47回「朝明ミーティング」はコロナ感染拡大のため 10月2日(土)・3日(日)から
2022年4月9日(土)・10日(日)に延期

リーダー連絡先

尾上 昇 FAX：052-832-3878

メール：onoe@onoe.co.jp

金谷正起 携帯：090-9931-3600

メール：kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp

榊 将美 携帯：090-7237-4410

メール：m.sakaki@minds-consulting.jp

村瀬恭平 携帯：090-4186-9876

メール：hoshizakari@docomo.ne.jp

田中 進 携帯：090-9191-8666

メール：t-susumu@peace.ocn.ne.jp

今津英一朗 携帯 090-2616-7549

メール：imazu.eiitirou@maroon.plala.or.jp

磯部 隆 携帯：090-9180-7245

メール：takass@yk.commufa.jp

高松信治 携帯：090-3156-5268

メール：takama2nobu3@yk.commufa.jp

松本陽子 携帯：090-7859-4031

メール：yo-kom@nifty.com

水野猛志 携帯：090-5866-3781

メール：r34668@bma.biglobe.ne.jp

近藤政仁 携帯：090-2183-8125

メール：vft55ud55@gmail.com

倉橋智司 携帯：090-8673-7180

メール：ilyt6by8@qc.commufa.jp

委員会報告

【山行委員会】

コロナ禍における山行のあり方

全国的なコロナウイルス感染拡大は、依然として終息の気配が見られない。特に今夏に入ってから第五波の感染拡大が続いている。ワクチン接種率の高まりにより、一刻も早い国民全体への集団免疫の獲得が期待される。

コロナ禍の影響から今年度に入ってからほとんどの支部山行が中止になり、支部員の期待にそった山行がなかなか出来ない。このような状況はまだまだ当分は続くと思われる。今後はWithコロナ、Afterコロナ時代における山行のあり方を考えていく必要がある。

コロナ禍においては、登山者一人一人が一層の安全登山に心がけ、事故を起こすなどして医療関係などへの過重負担をかけないようにすることが求められる。また、典型的な密の場である山小屋経営の悪化が深刻になっている。それに伴い登山道の管理などが困難になり、荒廃による危険度の増大も懸念される。この問題に我々がどう関わっていくのかもコロナ禍における大きな課題である。

山行委員長 鈴木慎吾

ゆるキャン△聖地巡礼シリーズの開催

『ゆるキャン△』とは、女子高校生たちがキャンプを通じて成長していく、アニメ化や実写ドラマ化もされた人気の漫画である。主人公達が訪れるキャンプ場は、『聖地』と呼ばれ、コロナ禍におけるキャンプ人気と相まって聖地巡礼がブームとなっている。

そこで、支部山行においても、テント泊初心者を対象として、聖地のキャンプ場に泊まり、前後に山に登る山行を企画している。テントの近くまで車で行くことができるため、山中のテント場泊に比べると、楽に快適な環境でBBQや焚き火などキャンプを存分に楽しむことができる。今年度、4回計画した内、緊急事態宣言などで1回しか実施できていないが、今後もあちらこちらの聖地を訪れ、いろいろな山の楽しみ方を模索していく予定である。

稲葉真英



今年の支部夏山山行

白馬岳山行(2021. 8. 4~5)



1日目、梅池自然園前から午後の雷雲を警戒し、出発を早めて歩きだす。天狗原の湿原を過ぎ、白馬乗鞍岳を越えて白馬大池小屋に宿泊。小屋の周囲ではチングルマやハクサンイチゲの花が満開で美しい。消え残る雪田の下には雷鳥も現れる。就寝前の山談義が弾み、楽しみを共有する仲間たちの存在は喜びや感動をさらに大きなものにしてくれる。

翌朝は快晴。船越の頭を過ぎ、小蓮華山への見事な非対称稜線を登っていく。真っ青な空へと上っていくような稜線の風景が、以前放送された「坂上の雲」のエンディングで流れてきたブライトマンの澄んだ声と重なる。

白馬岳山頂からの眺望を堪能し、下山は大雪渓から猿倉へ。大雪渓上部のザレた急斜面は雪解け水が流れ込み足元は脆い。涼しい風が吹き渡る4km近い雪渓を下り終えてようやく緊張感から解放される。

昨年からの感染拡大で山登りも縮小し、久しぶりの本格的な登山で力の衰えを痛感した。コロナ禍で迎えた2年目の夏、身の丈に合った安全登山を楽しみたいと思う。 足達京子

【自然保護委員会】

5月から10月まで、ヤマザクラフィールドでの調査です。環境省から貸与された赤外線カメラです。最近、雨天が続いてカメラの設置が難しくなっています。



自然保護委員会動物調査報告2021, 3~7
(同定 井藤)



No. 1 ニホンジカ 3/6 16:26 A-30



No. 2 ヤマドリ 5/4 6:17 B-276



No. 3 ハクビシン 4/30 23:13 A-244



No. 4 イノシシ 5/14 23:16 A-346



No. 5 ニホンカモシカ 6/5 10:56 B-456



No. 6 ウリボウ 6/24 02:34 B-673



No. 7 タヌキ 3/22 18:16 B-61



No. 8 ノウサギ 7/10 13:32 B-626

自然保護委員長 井藤恵美子

会 務 報 告

【2021年4月常務委員会】(zoomとの並行開催)

日時：4月28日(水)19時00分～20時20分

1. 支部長挨拶(高橋)：新年度が始まった。支部としては総会后からが新年度となるが新しい登山スタイル、例えば登山口まで密にならない方法や同行者の体調把握、懇親会のあり方など進めていく。また、web会議を徹底する。

2. 委員会報告

①総務(今津)：5/12の総会は書面審議。議決又は委任の返信ハガキは総会成立に関わるので提出するよう伝達いただきたい。

②会計(市川)：新年度の年会費の案内を4月の支部報に同封。支部友・登山学校は7月に同封。

③支部友委員会(金谷)：3～4月の山行はまん延防止等重点措置により中止となったのもある。冬山フェスタから6名入会あり。

④山行委員会(鈴木慎)：まん延防止等重点措置により愛知県外は中止。7～8月は支部友委員会からの要請もありもう少し多く計画したい。

⑥猿投の森づくり委員会(和田)：なごや環境大学は盛況の中無事終了。4/24総会実施し、提案通り承認された。5月に八ヶ岳ツリーワークスと共同で山研の除伐を予定している。

⑦東海ユース(服田)：6月定例山行は西台山遭難の道迷い検証を行う予定。

⑧支部報編集委員会(星)：166号の記事資料のとおり。これ以外にもあればお願いしたい。

⑨支部刊行物編纂委員会(星)：東海山岳の記事について現時点の案を配布。

⑩青年部(荒木)：月1回の定例山行を今後行う。

⑪学連(草野氏欠席、伊藤氏代理出席)：各大学とも新入生が入っていると思われるので山行へ行けるといい。春の総会はコロナの関係で開催できず。

⑫登山学校運営委員会(服田)：まん延防止等重点措置により山行は県内日帰りに限定して実施。指導員は5名が退任し新たに1名任命。第5期受講生HPで募集しておりメルマガでも近日中に周知予定。

⑬自然保護委員会(井藤)：5月以降の活動予定について報告。春の観察山行はコロナの状況により行くかどうか決めたい。

⑭海外登山(高橋)：フランスの雑誌にローツェ南壁登攀について記事が掲載される予定。

⑮ボランティア委員会(前田)：春の各山行についてはまん延防止等重点措置により全て中止。

⑯遭難対策委員会(山田)：登山届提出状況について配布資料のとおり。G3審査は2件を3/29に実施した。

⑰写真展実行委員会(坂本)：委員長は5月より伏屋氏に交代。撮影山行について参加希望があればメールにて申し込みいただきたい。

⑱森の音楽祭実行委員会(今津)：4/20に交流イベントを実施。

⑲技術向上委員会(清水氏欠席につき今津)：今年度の活動として秋頃、岐阜百秀山の講演も踏まえ登山道のない岐阜の山の体験山行や来年2月にイグルー作り講習会を検討中。

出席：高橋、佐野、山田、市川、金谷、鈴木(慎)、和田、前田、井藤、服田、星、石田、坂本、千葉、荒木、鈴木(愛)、伊藤

【2021年5月】休会でした。

【2021年6月常務委員会】(zoomとの並行開催)

1. 支部長挨拶(高橋)：今後、ワクチン接種後はコロナの環境も変わってくると思う。アフターコロナの取組は密に成らない様考えていきたい。又60周年記念事業の取組も再開し進めていく。

2. 委員会報告

①総務委員会(今津)：5月の入退会変化は無かった。佐野副支部長が本部の監事に就任した。ガイドブックは7月の支部報に同封済。

②愛知県岳連(鈴木愛)：読図講習会は好評だった。支部から3名程参加があった。

③山行委員会(鈴木慎)：5月・6月・7月10日まではコロナの影響で活動は休止だった。今後は中央ア・北ア等計画をしている。

④猿投の森づくり委員会(和田)：定例作業は順調に進んでいる。秋には全ての行事が出来るよう準備中。

⑤東海ユース(服田)：会員動向の変更は無い。定例山行として神石山を計画したが県外の山の為個人山行として5名で実施。6月27日は西台山からタンポを道迷い検証山行として5名で予定。

⑥60周年記念事業(今津)：式典・音楽会・懇親会の3部構成で行う。講演会・懇親会は決定。音楽会は継続審議で今後決めていく。予算を組みたい旨の報告があり承認された。

⑦支部報編集委員会(星)：166号は6月30日発送する。“東海山岳”は来月の委員会で報告。

⑧青年部(荒木)：2名入会希望者あり。

⑨登山学校運営委員会(服田)：5月・6月の学校山行は愛知県内の日帰り。中級・上級のテント泊山行は全て中止。7月10日に行う登山学校入校式を行う。此れまで受講生の参加状況によっては指導員も山行の交通費の負担をしていた。指導員の負担を解消する為、支部から預かっている中から負担したいと提案された。→会計の市川氏から委員会費用より支出する点について了承をした。

⑩海外登山委員会(高橋)：山田利さんから連絡により、ヒマラヤについて秋から春に延期をする事とした。また青年部支部員の体験山行も今後計画したい旨報告がされた。

⑪ボランティア委員会(前田)：①秋のブライント登山から計画していく。②SON愛知に関しては大人数の山行を避けて3回に分けて10名位で行う。③タンポポ登山は裁判所の判断次第で秋からを予定している。④ひまわり登山は公式行事として秋より計画したい。

⑫遭難対策委員会(山田)：夏山気象講座は60名参加で実施する。リモートは100名を予定している。5月の支部で行った山行は3件だった。

⑬森の音楽祭実行委員会(今津)：音楽祭の中止になった旨の報告がされた。

⑭技術向上委員会(清水)：出版物記念講演会を12名の参加で実施した。

⑮会計(市川)：4月に支部員向けの会費請求を送った、7月の支部報に同封して支部会費と登山学校の会費請求書を送る。東海支部の振り込み口座の名義変更を行った。8月からは会計の担当が奥山さんに変更する。

出席：山田、今津、市川、服田、井上、鈴木(愛)、伏屋、西山、高橋、和田、佐野、鈴木(慎)、清水、星、荒木

【7月常務委員会】(zoomとの並行開催)

日時：7月28日(水)19時00分～20時30分
1. 支部長挨拶(高橋)：①夏山シーズンに向かって、コロナはだいぶ落ち着いたようだ。山に行くときは密にならないよう実施のこと。

2. 委員会報告

①総務(今津)：冬山フェスタについて今年も特別協力要請がきている。ルームメールアドレス、古いものをHP等使わないように。旧room01@muse.ocn.ne.jp⇒

新jactokai107@gmail.com各委員会HP変更の事。古道調査について(西山)は、メンバーは5名集まった。8月中に一度会合を行う。支部より伊勢神峠を割り当てられた。

②支部友委員会(金谷)：5～6月は活動なし。7月の夏山については2件実施済み。

③山行委員会(鈴木慎)：まん延防止等重点措置により6～7月はほとんど中止。支部報10月号より「支部山行だより」を掲載予定。

④東海ユース(服田)：6月定例山行の西台山遭難の道迷い検証は雨天のため10月に実施予定。

⑤60周年記念事業(尾上欠席につき今津)：記念の集いについて案を配布。

⑥支部報編集委員会(星)：167号の記事について配布資料のとおり。8月末原稿〆切。

⑦支部刊行物編纂委員会(星)：東海山岳の記事について現時点の目次を配布。発行は2022年6月予定。

⑧登山学校運営委員会(服田)：7/10第4期修了式と第5期入校式を実施。山行費用補填案について、コロナ等により参加者少数となった際には案のとおり費用を補填したい。(承認)

⑨自然保護委員会(井藤)：猿投で沢登りする、山でなくても自然のフィールドに入るときには計画書の提出必要。参加人数は委員会判断。

⑩ボランティア委員会(前田)：資料に基づき現状報告。①タンポポ登山(身柄付補導委託登山)泊りはリスクが高いので日帰りで11月に猿投山。②ひまわり登山、9月入笠山、人数が多くなるが安心安全に配慮して実施予定。

⑪遭難対策委員会(山田)：登山届提出状況について配布資料のとおり。委員会内でリスクチェックの検討を実施し見直し予定。

⑫装備委員会(千葉)：装備の棚卸が終了。運用を今後つめていく。不適切な状態で返却されていることがあり、今まで通り委員会で管理して行く備品と誰でも借りることができる備品を分ける。

⑬技術向上委員会(清水)：6/12の講演会は緊急事態宣言中ということもあり、ルームに11名、zoomで12名ほど参加いただき無事終了。8/18に次回委員会実施予定。

⑭会計(奥山)：先日引継ぎを受けたが大変作業量が多い。効率化を考えている。

出席：高橋、佐野、山田、奥山、金谷、鈴木(慎)、和田、井藤、服田、星、清水、千葉、西山、荒木、鈴木(愛)

ル ー ム 日 誌

―― 6月 ―――
大会議室 / 小会議室
1(火)県岳連 / TNCC

- 2 (水) 青年部
- 3 (木) 写真展実行委員会
- 4 (金) 古道塩の道
- 6 (日) 東海ユース (中止)
- 7 (月) 支部友委員会
- 8 (火) 支部友ミーティング
- 9 (水) 山行委員会
- 10(木) 自然保護委員会
- 11(金) 全国支部懇談会
- 14(月) 登山学校運営委員会
- 15(火) ボランティア委員会
- 16(水) 東学連
- 17(木) "正副支部長会議 /技術向上委員会
総務委員会"
- 19(土) 技術向上委員会 (講演会)
- 21(月) 図書委員会・読図会
- 23(水) 常務委員会
- 28(月) 支部友読図会
- 29(火) 遭難対策委員会

----- 7月 -----
 大会議室 / 小会議室

- 1 (木) 写真展実行委員会
- 2 (金) 古道塩の道
- 4 (日) 学校指導員研修会

- 5 (月) 支部友委員会 (中止)
- 6 (火) 県岳連 TNCC
- 7 (水) 60 山ラリー委員会 (中止) / 青年部
- 8 (木) 自然保護委員会
- 9 (金) 全国支部懇談会
- 12(月) 登山学校運営委員会
- 14(水) 山行委員会
- 15(木) 東学連
- 16(金) 亀の会
- 19(月) 図書委員会・読図会
- 20(火) ボランティア委員会 / 技術向上委員会
(中止)

- 21(水) 正副支部長会議 総務委員会
- 26(月) 支部友読図会
- 27(火) 遭難対策委員会
- 28(水) 常務委員会

会員異動

- 入会：竹内誉剛(16804) 六郷孝也(16799)
 谷 剛士(16802)
- 退会：中村鎮雄(14669) 浅井隆宣(15075)
 浅野武雄(13984) 梅田浩生(6358)
 圓谷伸希(16207) 脇街道卓(16282)
- 物故：箕浦靖夫(8073)

I N F O R M A T I O N

【総務委員会からのお知らせ】

△ 東海支部創立60周年イベントのお知らせ△
 2021年度支部新年会は、以下のように60周年記念イベントとして、以下のように開催予定です。マカルー登頂50周年記念講演、他など楽しい会にすべく企画中です。ご予約をお願いいたします。

日時：2022年1月16日 (日) 午後
 場所：今池ガスビル レストランガス燈

総務委員会 今津英一朗

△ 第2回冬山フェスタ開催のお知らせ△
 2020年より始まりました冬山フェスタ、2021年度も第2回が開催される予定です。

※東海支部も協賛しますので、一部のかたはスタッフとして参加もお願いいたします。

日時：2021年12月18日 (土)、19日 (日)
 場所：名古屋ウインク愛知
 主催：2021夏山フェスタ実行委員会

総務委員会 今津英一朗

【猿投の森づくりの会からのお知らせ】

猿投の森づくりの会では「なごや環境大学」の講座を受け持っています。是非ご参加ください。お子様連れ、ご家族連れ歓迎。

講座名： 森からのプレゼントⅡ ～猿投の森の恵みを丸ごと体験～

内容： 間伐材を利用してスエーデントーチ (非常用コンロ) 作り、シイタケの原木に菌の植え付けなど行います。

講義日：2021-10-23、12-25、2022-2-26、3-26 各土曜日 10:00～13:00

参加費：各日300円 参加できる日のみでも可
 申し込み：お名前、年齢、性別、住所、電話番号、メールアドレスを megumi.kamiguchi@gmail.com まで送ってください。

猿投の森づくりの会 和田豊司

「山に登る」ということも含めてワクチン接種後の生活の新ルールが認知されてきた。毎年訪れる花の山もご無沙汰である。錦秋の秋には、三密を避けていつもの山歩きを楽しみたい。

星 一男

SINCE 1975
mont-bell
FUNCTION IS BEAUTY

最新情報はこちらから
www.montbell.jp



0088-22-0031 06-6536-5740

株式会社 **モンベル** 【お問い合わせ】モンベル・カスタマー・サービス

法務相談は行政書士にお任せください!

相続 会計 許認可

1時間無料相談

あなたの不安を解決に導きます

遺言書、遺産分割協議書、
法定相続情報一覧図作成、任意成年後見の相談など



西山行政書士事務所 ☎052-961-6506

名古屋市中区丸の内3-21-21丸の内東桜ビル1004
www.nygs-office.com

久屋大通駅
徒歩1分

『東海支部報』では、
広告を募集しております

表4(裏表紙)掲載

※掲載のご希望・お問合せは

jactokai107@gmail.com まで

***** OMC *****

住いのコンサルタント

(有) 富士見企画

〒460-0014
名古屋市中区富士見町8番8号

オフィスに関する悩み事、丸天産業が全て解決します。

ファシリティマネジメントによるオフィス構築や
デザイン、インテリアやセキュリティなど
オフィスのすべてが揃っています。

オフィスのお困りごとを丸がかえでお応えいたします。



郵送無料 Honesty

コンサルティング事例集

オフィスに関するお悩み事の解決事例が載っています。
お申込みは下記までお電話ください。

株式会社 丸天産業

本社 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄5丁目10-34
TEL: 052-241-3686 FAX: 052-241-0457

企画・デザイン・印刷



株式会社 浅井隆文社

〒461-0044 名古屋市東区矢田東1番22号
TEL (052)719-0677 FAX (052)719-0678
E-mail: info@asai-rbs.co.jp